

全世界待望の最新アルバム『UNDERWORLD』を全39ページで追うVAMPS大特集号! サイン入りポスター付き

GIGS

® すべてのバンドマン&プレイヤーを応援する
ロック・マガジン[GIGS]

06
2017 JUN
No.451

平成29年4月27日発行・発売
【毎月27日発行・発売】第29巻・第8号
連巻451号平成29年4月17日 第3種郵便物認可

VAMPS

サイン入り
ポスター
付き!



記念すべき“25th L'Anniversary LIVE”のステージとサウンドを徹底包囲

L'Arc~en~Ciel

地元・名古屋を揺らした轟音の中心に潜入! “YON FES 2017”完全レポート

04 Limited Sazabys

BLUE ENCOUNT, NAMBA69, Mrs. GREEN APPLE, UVERworld, SILENT SIREN
9mm Parabellum Bullet, ヤバイTシャツ屋さん, go!go!vanillas...and more!!



生形真一

[Nothing's Carved In Stone]

× Marshall CODE 50



驚愕の実力を秘めたデジタル・アンプ

ビンテージから現代のモデルまで、歴代のマーシャル・サウンドをモデリングしながら、アプリと連動させてのサウンドメイクまで可能にするデジタル・アンプ：CODEシリーズ。緻密かつ多彩に創造できるそのサウンドは、プロをも唸らせるクオリティを誇っている。ここでは、その実力を測るべく、Nothing's Carved In Stoneの生形に本機を体感してもらった。かねてからマーシャル・サウンドに馴染んできた彼は、このアンプにどんな可能性を感じるのか？ その言葉に耳を傾けてみよう。

Text / TAKAYUKI MURAKAMI Photo / KEJU TAKENAKA [D-CORD]

製品の問い合わせ先 / ヤマハミュージックジャパンお客様コミュニケーションセンター ギター・ドラムご相談窓口 [0570-056-808] (ナビダイヤル) <http://www.marshallamps.jp/>

いろんなアンプを使うけど 結局マーシャルに戻る

「マーシャルのことはギターを弾くようになって、わりとすぐに知りました。俺が当時聴いていたミュージシャンはマーシャルを使っていることが多くて、一番スタンダードなアンプなんだなと思ったんです。最初にマーシャルを鳴らしたのは中学生のときでしたね。地元のスタジオに置いてあったJCM800を弾いたんですけど、メチャクチャ弾きにくいアンプだと思

ったことを覚えています。JCM800は最近のハイ・ゲイン・アンプとはまったく違って、歪ませてもクリーン・トーンみたいな感覚なんですよ。硬い音だし、歪ませても音が滑らかになくて、ゴマカシが効かなくて、すごく弾きづらかった。今ではそれがマーシャルの良さであり、面白さだと思って使っているけど、第一印象はそういう感じでしたね。

その後バンドを始めてからは、いろんなアンプを使いました。ハイワットとか、フェンダーとか、VHTとか。ただ、いろんなアンプを使う

けど、結局マーシャルに戻るっていうことを繰り返していたんです。やっぱりロックをやるにはマーシャルが一番合う気がしますね。いろんなアンプを使いつつ、ELLEGARDENの1stから今でも、実はレコーディングだとメインはずっとマーシャルのJCM800を使っているんです。今のレコーディングではJCM800の4インプット・タイプのものを使っていて、ライブのときはマーシャルで初めてマスター・ボリュームが付いたJMP2203というモデルを使っています」(生形)



Marshall CODE 50 ¥0open Price

Specification

Control : PRESET, EDIT, MASTER, VOLUME, TREBLE, MIDDLE, BASS, GAIN, PRE FX, AMP, MOD, DEL, REV, POWER, CAB, EXIT/STORE /
Input / Output : INPUT, FOOT SWITCH, HEADPHONE, AUDIO, USB /
Output Power : 50W / Size : 530mm (W) × 440mm (H) × 280mm (D)

マーシャル・サウンドを集約した デジタル・アンプ

CODEはマーシャルとSOFTUBE社が共同開発した“MARSHALL・SOFTUBE・TECHNOLOGY (以下MST)”をフィーチャしたデジタル・アンプ。MSTのモデリングは非常に優れていて、マーシャルの歴史を飾る名機をはじめとした14種類のプリ・アンプ、4種類のパワー・アンプ、8種類

のスピーカー・キャビネットなどのリアルなサウンドを味わえる。

さらに、24種類の高品位なデジタル・エフェクトや即戦力として使える100種類のプリセット・トーンも搭載。アンプ/キャビネットの組合せを自由に選べることも含めて、多彩なサウンドを引き出すことができる。



▲CODEの使い方は簡単で、アンプ・モデリングを選んで、パネルのEQで音色を調整すればOK。もしくは、プリセットの中から好みの音を選ぶという手もある。デジタル・アンプ初心者でも迷うことなく理想的な音が出せるし、作り込んだ音色の保存も可能だ。

CODEの実力を引き出すアプリ:GATEWAYでサウンドメイク

CODEシリーズ最大の特徴が、GATEWAYというアプリを使って音作りが可能だということ。そこで、生形にCODE 50を試奏しての手応えを聞くと同時に、GATEWAYで作ったNCISの楽曲を再現するためのセッティングを公開してもらった。

CODEは無償でダウンロードできる“GATEWAY”というアプリを使用することで、さらに機能性を高めることができる。同アプリをスマホなどにインストールすれば、アンプ・タイプやエフェクトの各セクションのON/OFFから細かな音作りまでを視認性の高い画面上でも行えるようになる。また、GATEWAYのライブラリーにアップされているプリセットのダウンロードやサウンド・エディット、こだわりの自作トーンを他ユーザーと共有することなどが可能となる。さらに、手持ちのデバイスに保存されている楽曲に合わせてプレイすることもできるようになるので、CODEを入手したらダウンロードすることを強くお勧めしたい。



▲GATEWAYの画面は実に分かりやすく、JTM45や1959プレキシ、JCM800、JVMといった計14種類のプリ・アンプから好きなモデリングを簡単に選択できる。エフェクターもドライブ系、モジュレーション系、ディレイ、リバーブの4種類に分けられていて、各エフェクトの呼び出しも実にスムーズ。指先を上下にスライドさせることで各パラメーターの調整ができる操作性の良さも魅力で、作った音色を保存することも可能だ。

生形はCODE 50とGATEWAYをどう見たのか？



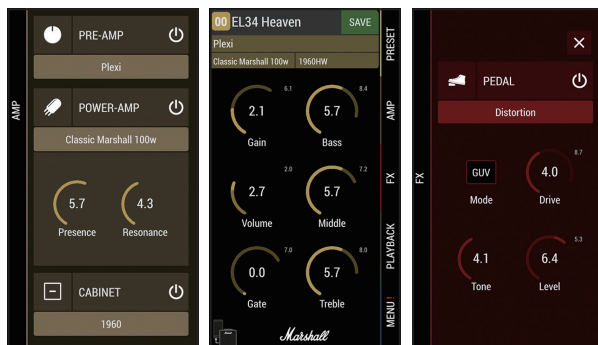
「すごく良いですね。JCM800とか1959とかをいろいろ試してみたけど、全部リアルな音がして、特に1959はかなり本物に迫っています。すごくナチュラルな音で、デジタルっぽさはまったくない。俺がデジタル・アンプで一番気になるのは、歪ませるとコンプレッションが掛かってデジタルっぽさが出てくることなんです。でも、このアンプのビンテージ・マーシャルのモデリングにはそれがない。ある意味デジタルでビンテージっぽさを出すというのが一番難しい気がするけど、それを実現させているのはすごいですね。

エフェクターも質が高いです。ハムバックはモジュレーションや空間系エフェクターの掛かりが悪いときがあるけど、このアンプのエフェクター

はしっかり掛かりますね。フランジャーとかが“バキッ！”と掛かってピツクリしました(笑)。それに、エフェクターの初期設定がすごく良くて、あまり調整する必要がないんですよ。簡単に上質なエフェクター効果を味わえるし、好みに合わせてさらにそこから追い込んでいくこともできる。アンプの付け足しという感じではなくて、実践力の高いエフェクターだと言えますね。

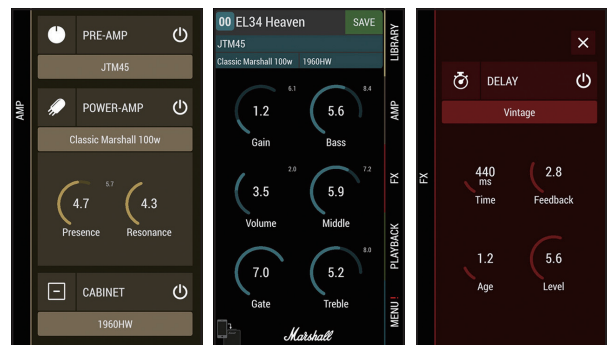
GATEWAYは簡単だし、細かいセッティングもしやすく、すごく扱いやすいです。俺みたいにアナログなギタリストはツマミでいじるのが一番分かりやすく、それと同じ感覚で音作りができると助かるんですよ(笑)。アプリとかに慣れていない人でも、スムーズに使えんと思います」(生形)

バックイング用歪みサウンド



▲GATEWAYを使って、生形の基本的なバックイング・トーンを作ってもらった。「プリ・アンプはプレキシで、キャビネットが1960の普通のヤツ。それに、ガバナーを足した音です。ガバナーのDRIVEは4くらいだから、ゲイン的にはクランチ程度というか。俺はロー・ゲインの音を、バックイングで歪ませるような感覚で弾いているんです。ビンテージ・マーシャルはそういう弾き方が一番合うアンプで、そこを再現できているのが本当に良いですね」(生形)

ディレイを使ったクリーン・トーン



▲2つめは、生形の魅力の1つになっているメロウなクリーン・トーン。[[Diachronic]とか「村雨の中で」とかで使うクリーン・トーンをイメージした音です。プリ・アンプはJTM45で、スピーカーは1960のハンドワイヤードというタイプ。ディレイは、ビンテージ・ディレイです。この音は俺がレコーディングで鳴らしているクリーン・トーンにすごく近い。こういう音はなかなか出せないのに、簡単に出て驚きました」(生形)